



第34章 心霊術の正体

死者の霊とは何か

聖書に示されている聖天使たちの奉仕は、キリストに従うすべての者にとって、最も大きな慰めとなる貴重な真理である。しかし、この点に関する聖書の教えは、一般の神学の誤りによって不明瞭^{ふめいりょう}にされ、曲解されてきた。最初は異教の哲学からの借り物で、大背教の暗黒の間にキリスト教の信仰の中に混入した霊魂不滅の教えが、聖書にはっきり教えられている「死者は何事をも知らない」という真理に、取って代わった。

「仕える霊であって、救いを受け継ぐべき人々に奉仕するため、つかわされた」のは、死んだ者の霊であると、多くの人々は信じるようになった。しかも、人間界に死が入る前から天使たちは存在し、人間の歴史と関係があったという聖書のあかしがあるにもかかわらず、人々はそう信じているのである。

死んでも人には意識があるという教え、特に、死んだ者の霊が生きている者に仕えるためにもどってくるという信仰は、近代心霊術(降神術)への道を備えた。もし死んだ者が、神と聖天使たちとの前に出ることを許され、また彼らが前に持っていたものよりはるかに優れた知識を持つ特権が与えられるなら、彼らは生きている者を啓発し教えるために、地上に帰って来ないはずがないのではないか。一般の神学者たちが教えるように、もし死んだ者の霊が地上の友人たちの回りをさまよっているなら、彼らはその友人たちと連絡を取り、悪事を戒め、あるいは悲しみを慰めないはずがないのではないか。死んでも人には意識があると信ずる者は、栄化した霊によって伝えられる天来の光として彼らに与えられるものを、どうして拒むことができようか。ここに、神聖なものとみなされている経路(チャンネル)があって、サタンはこの経路を通じて目的を達成するために働いているのである。



3 4 心霊術の正体

サタンの命令を行う墮落天使たちが、霊界からの使者として現われる。生きている者が死んだ者と連絡できるようにすると公言しながら、悪の君は、生きている者の精神にその魅惑的な感化力を働かすのである。

サタンは人々の前に、彼らの死んだ友人たちの姿をあらわす力を持っている。その偽者^{にせもの}は完全である。見なれた表情や言葉や声の調子などが、信じられないほどの正確さをもって再現される。多くの者は、自分たちの愛する者が天の無上の幸福を味わっていると信じて慰められる。そして危険を少しも感じないで、「惑わす霊と悪霊の教え」に耳を傾けるのである。

心霊術の正体

死んだ者が実際に自分たちと交わるためにもどって来ると人々が信じるようになると、サタンは、備えのないまま墓にくだった者たちを出現させる。彼らは、自分たちは天では幸福であり、高い地位さえ占めていると公言する。そしてこのようにして、正しい者と悪い者との間に違いはないという誤謬^{ごびゅう}が広く教えられる。霊界から来たと称する者たちは、時には注意や警告を語って、それがそのとおりになることがある。そこで信頼を得ると、彼らは聖書の信仰を直接侵害するような教えを持ち出す。地上にある友人たちの幸福に対する深い関心を装いながら、彼らは最も危険な誤謬をそれとなくほのめかす。彼らが幾つかの真理を語り、また時には未来のできごとを預言することができるという事実から、彼らの言葉には信ぴょう性があるように見える。そして彼らの偽りの教えは、あたかも聖書の最も神聖な真理であるかのように、大衆によってたやすく承認され、盲目的に信じられる。神の律法は退けられ、恵みのみ霊は軽べつされ、契約の血は清くないものとみなされる。霊たちはキリストの神性を否定し、創造主さえ自分たちと同じ水準に置く。このように新しい変装の下に、大反逆者サタンは、天において始まり、地上において6000年近く続いている、神に対する彼の戦いを、依然として続けるのである。



3 4 心霊術の正体

多くの者は、心霊現象を、全く霊媒の欺きやからくりであると説明しようと努める。しかし、ごまかしをほんものと信じさせた場合がたびたびあったことは事実だが、一方超自然的な力の著しい現われもまたあったのである。近代心霊術はコツコツたたく不思議な音(ラッピング)から始まったのであるが、その音は人間のごまかしや欺きによるのではなく、悪天使たちの直接の働きであった。彼らはこのようにして、魂を滅ぼすのに最も効果的な惑わしの1つを持ち込んだのである。多くの者は、心霊術は単なる人間のごまかしであるという信念によってわなにかかる。というのは、超自然的と思わないではいられないような現象に直面した場合、彼らは欺かれ、それを神の偉大な力として承認するようになってしまうからである。

こうした人たちは、サタンとその代理者たちとによって行われる不思議なことについての、聖書のあかしを見落としているのである。パロの魔術師たちが神のみ業のまねをすることができたのは、サタンの助けによってであった。パウロは、キリストの再臨の前には同じようなサタンの力の現れがあるであろうと証言している。主の来臨に先だって、「あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、また、あらゆる不義の惑わし」を行う「サタンの働き」がある(Ⅱテサロニケ 2：9、10)。また使徒ヨハネは、終わりの時代に現れる、奇跡を行なう権力を描写して、「また、大いなるしるしを行って、人々の前で火を天から地に降らせることさえした。さらに、先の獣の前で行うのを許されたしるしで、地に住む人々を惑わした」と述べている(黙示録 13：13、14)。ここにされているのは単なる詐欺ではない。サタンの代理者たちが人の目をごまかして行うようなことによってではなく、実際に彼らが行う力をもっているその奇跡によって、人々は欺かれるのである。



欺瞞の張本人

長い間その熟達した能力を欺瞞の働きに注いできた暗黒の君は、あらゆる階層あらゆる状況の人々に、彼の誘惑を巧妙に当てはめる。彼は、教養のある上品な人々に向かっては、心霊術をいっそう洗練された知的なものとして示す。こうして彼は、多くの人々を自分のわなに引き込むことに成功する。心霊術が与える知恵は、使徒ヤコブが「上から下ってきたものではなくて、地につくもの、肉に属するもの、悪魔的なもの」と述べたものである(ヤコブ 3 : 15)。しかし大欺瞞者サタンは、隠すことが最もよく彼の目的にかなう時には、このことを隠すのである。荒野の試みの時、キリストの前に天の使いの輝きを装って現われることができたサタンは、人々の前に光の天使として最も魅惑的な様子をもって来る。彼は高尚なテーマを示すことによって理性に訴える。また彼は、うっとりさせるような光景をもって空想力を楽しませる。また愛と慈悲とを雄弁に描いて愛情を呼び起こす。彼は人々の空想を高く飛躍させ、人々が自分たちの知恵に大きな誇りを持つように導き、そしてついには心の中で永遠なるお方を軽べつするようにさせる。世の救い主を非常に高い山に連れて行き、そのお方の前に地上のすべての国々とその栄華を示すことができたこの力ある者は、神の力によって守られていないすべての者の感覚を誤らせるような方法で、人々に誘惑を仕掛けるのである。

サタンは、エデンでエバを欺いたように、へつらったり、禁じられた知識への欲望をかき立てたり、自己を高める野心を起こさせたりして、今も人々を欺くのである。彼が墮落したのは、こうした悪を心に抱いたためであった。そして、彼は、これらによって、人類を破滅させようとしている。「あなたがた(は)……神のように善悪を知る者となる」と彼は言った(創世記 3 : 5)。心霊術は、「人間は進歩する生物である。人間はその誕生の時から、永遠に向かい神に向かって進歩するように運命づけられている」と教える。また、「心を判断する者は、各人の心それ自身であって、他の何者でもない。」「その判断は正しい。なぜならば、それは自己の判断だからである。……王座は、あなたの内にある」とも言う。ある心霊術の教師は、彼のうちに「霊的意識」が起きた時に、「同胞よ、すべての者は、墮落しない半神半人であった」と言った。また他の者は、「正しく完全な人間は、だれでもキリストである」と言っている。



3 4 心霊術の正体

こうしてサタンは、崇敬の真の対象である無限の神の義と完全、また、人間の到達すべき真の標準である神の律法の完全な義の代わりに、罪深く誤りやすい人間自身を、崇敬の唯一の対象とし、判断の唯一の規準、品性の標準とした。これは、進歩ではなくて、退歩である。

ながめることによって変化するということは、知的方面においても霊的方面においても1つの法則である。心は、いつも考えていることに次第に順応するものである。それは、日ごろから愛し尊敬しているものに、同化していくのである。人は、自分が立てた純潔、善良、または真理の標準よりも高きに達することは決してない。もし自分が最高の理想であれば、それ以上の高尚なものに到達することは決してできない。いや、かえって常に下へ下へと落ちていくのである。ただ神の恵みだけが、人間を高める力を持っている。人間は、そのままにしておけば、必然的に墮落していくのである。

人間を破滅させるもの

心霊術は、放縦で快楽を愛好し、肉欲的な人々には、教養があつて知的な人々に対するほど巧妙に偽装しなくてもよい。彼らは、その低劣な形態の中に、彼らの好みに合ったものを見つける。サタンは、人間の性質のあらゆる弱さの徴候をよく調べ、それぞれが犯しやすい罪に注目し、悪の傾向を満足させる機会に欠けることのないように注意を払う。サタンは人々を、それ自身は正当であるものに過度に陥らせ、不節制によって、彼らの肉体的、精神的、道徳的能力を低下させる。彼は、人々に情欲をほしいままにさせ、こうして人間の性質全体を獣的なものにして、これまでに幾千の人々を破滅させ、また今も破滅に陥れつつあるのである。そして彼は、彼の働きを完成させるために、霊たちを通して、「真の知識は、人間をしてすべての律法を超越したものとす」、「存在するのは、すべて正しい」、「神は、罪に定めることはない」、そして、「犯した罪はすべて無罪である」、と言うのである。



3 4 心霊術の正体

このようにして、欲望が最高の律法であって、自由は放縦であり、人間はただ自分に対する責任しかない、人々が考えるようになれば、至るところに腐敗と墮落がはびこっても不思議ではないのである。多くの者は、肉の心のおもむくままに自由な行動をすることを許す教えを、熱心に受け入れるのである。彼らは、肉の欲をほしいままにし、心と魂の能力は、動物的な傾向に従属するものとなる。そしてサタンは、キリストの弟子であると称する幾千の人々を彼の網の中に捕えて勝ち誇るのである。

しかし、だれも心霊術の偽りの主張に欺かれる必要はない。神は、わなを見つけることができるのに十分な光を、世の人々に与えておられる。すでに示したように、心霊術のいちばん根底にある教えは、聖書の最も明瞭な言葉に相反するものである。聖書には、死者は何事も知らない、彼らの思いは滅びた、彼らは日の下に行われるどんなことにもかかわりがない、彼らは地上にいる愛する者たちの喜びや悲しみを知ることはない、はっきり述べられている。

さらに神は、いわゆる死者の霊との交通と称するものを、すべてはっきりと禁じておられる。ヘブル人の時代にも、今日の心霊術者と同様に、死者と交通すると主張するある種の人々がいた。しかし、他の世界から来たといわれている「口よせの霊」が、聖書には「悪鬼の霊」と断言されている(民数記 25 : 1—3、詩篇 106 : 28、1コリント 10 : 20、黙示録 16 : 14を比較せよ)。口よせの霊を呼ぶことは神が忌みきらわれるものと明言され、死の刑罰をもって厳しく禁じられていた(レビ 19 : 31、20 : 27参照)。口よせという名称そのものは、今日では軽べつされている。人が悪霊と交わることができるという主張は、暗黒時代の作り話と考えられている。しかし心霊術は、幾十万、いや幾百万の信者を持ち、科学者たちの仲間にも入り込み、諸教会に侵入し、議会の好意を得、王室にまでも侵入している。この巨大な欺瞞は、昔罪とされ、禁じられていた口よせが、新しく変装して復活したものにすぎないのである。



悪霊の本姓

もし心霊術の真の性質についてほかの証拠がないとしても、霊というものが義と罪とを区別せず、キリストの最も気高く純潔な使徒たちとサタンの最も墮落したしもべたちとを区別することをしないということだけで、キリスト者たちにとっては十分であろう。どんな卑劣な人間であっても、天にいて非常にあがめられているということを示して、サタンは世の人々に向かって次のように言うのである。「あなたがたがどんなに悪くても、かまわない。神と聖書を信じようと信じまいと問題ではない。あなたがたが好むように生活しなさい。天はあなたがたの家なのだ。」心霊術者たちは、事実上次のように宣言しているのである。「すべて悪を行うものは主の目に良く見え、かつ彼に喜ばれる。また、さばきを行う神はどこにあるか」(マラキ 2 : 27)。神のみ言葉には、「わざわざいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗きを光とし、光を暗しとし」と言われている(イザヤ 5 : 20)。

使徒たちの姿を装った偽りの霊は、使徒たちが地上にいる時聖霊のさしずのままに書いたものと矛盾することを教える。彼らは聖書が神から出たものであることを否定し、こうしてキリスト者の望みの土台を破壊し、天への道を照らす光を消し去る。サタンは、聖書は単なる作り話であるとか、少なくとも人類の初期にはふさわしい書であったが、今日では軽く見過ごすか、すたれたものとして捨ててしまってよい本だと、世の人々に信じさせている。そして彼は神のみ言葉の代わりに、心霊現象を持ち出す。ここに完全にサタンの支配下にある経路がある。そして彼はこの方法によって、自分の思うままに世の人々に信じさせることができる。サタンとその従者たちをさばく書を、彼は自分の思いのままに陰に隠す。彼は世の救い主を、ただの人間にしてしまう。ちょうど、イエスの墓の番をしていたローマの番兵たちが、イエスの復活を否認するよう祭司や長老たちから教え込まれて、偽りの報告を言い広めたように、心霊術の信者たちは、われわれの救い主イエスの生涯にはなんの奇跡もなかったかのように見せかけようとする。こうして、イエスを後方に押しつけて、自分たち自身の奇跡に注意を引き、それがキリストの業よりもはるかに優れていると宣言するのである。



心霊術の変貌^{へんぼう}

心霊術はたしかに今ではその外形を変え、不都合な点を隠して、キリスト教の装いをとっている。しかしその主張は、長年にわたって、講壇や出版物を通して公表され、その中に真の性質が表されてきた。これらの教えは、否定することも隠すこともできない。

心霊術は現在の形においてさえ、以前よりも容認すべき性質のものではないどころか、実際にはもっと巧妙な欺瞞であるためにいっそう危険である。それは以前にはキリストと聖書を非難していたが、今はこの両者を受け入れると公言している。しかし、生まれ変わっていない心を喜ばすような方法で聖書が解釈され、他方、聖書の厳粛で重大な数々の真理が力ないものとされている。愛は神の第1のご性質としてくり返し説明されてはいるが、善と悪をほとんど区別しない弱々しい感傷主義に墮している。神の正義、罪に対する神の非難、神の聖なる律法の諸要求は、すべて無視されている。人々は十戒は死文であると考えるように教えられる。喜ばせ魅惑するような作り話が人々の感情をとらえ、聖書を自分たちの信仰の基盤とするのを拒否させようとする。以前と同じにキリストは実際には拒まれているのであるが、サタンは人々を盲目にしてその惑わしが見分けられないようにしているのである。

心霊術の欺瞞的な力と、その影響を受けることの危険性を、正しく認めている者はほとんどいない。多くの者は、単に好奇心を満足させるために心霊術に手を出す。彼らはそれをほんとうに信じているのではない。かえって霊の支配に服することを思うと恐怖で満たされる。しかし彼らは、禁じられた地に危険を顧みないで入っていく。そして強大な破壊者が、彼らの意志に反して彼らの上にその力を働かすのである。彼らが1度でもその心をサタンの命令に従わせる気になると、サタンは彼らをとりにする。サタンの魅惑的な魔力を、自分の力で断ち切ることは不可能である。信仰の熱心な祈りに答えて与えられる神の力だけが、これらの捕えられた魂を解放できるのである。



悪霊との戦い

罪深い性質をほしいままにしたり、知っている罪を故意に抱いている者はみな、サタンの誘惑を招く。彼らは自分を神から、また神のみ使いの守護から引き離している。悪魔が彼らを惑わす時に、彼らは、守ってくれるものもなく、容易にそのえじきとなる。このようにしてサタンの力に身をゆだねる者は、自分たちの道がどこで終わるかを悟らないのである。彼らを征服してしまうと、誘惑者サタンは、ほかの者を滅びにおびきよせる手先として彼らを用いる。

預言者イザヤはこう言っている。「もし人なんじらにつげて^{みこ}巫女および魔術者のさえずるがごとく^{ささやく}細語がごとき者にもとめよといわば、民はおのれの神にもとむべきにあらずや。いかで^{いけるもの}活者のために^{しねるもの}死者にもとむることを^せ為んといえ。ただ^{おきて}律法と^{あかし}証詞とを求むべし、彼らの言うところこの^{ことば}言にかなわ^しずば^{しのめ}晨光あらじ」(イザヤ 8 : 19、20・文語訳)。もし人々が、人間の性質や死人の状態について聖書の中に明らかに述べられている真理を喜んで受け入れていたら、心霊術の主張や現象の中に、力とするしと偽りの不思議とを伴ったサタンの働きを認めるであろう。しかし多くの人々は、肉の思いに都合のよい自由を放棄したり、愛好している罪を捨てたりするよりはむしろ、光に目を閉じ、警告も顧みないで突き進んでいく。するとサタンは、彼らの回りにわなを仕掛け、彼らを抑えてしまうのである。彼らが「自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれなかった」から、「そこで神は、彼らが偽りを信じるように、迷わす力を送」られるのである(Ⅱテサロニケ 2 : 10、11)。

心霊術の教えに反対する者は、ただ人間だけではなくサタンと悪天使たちを攻撃しているのである。彼らは、もろもろの支配と、権威と、天上にいる悪の霊との戦いに入ったのである。サタンは、天の使いの力によって撃退されないかぎり、一步も退却しようとはしない。神の民は、救い主がなされたように、「……と書いてある」という言葉をもってサタンに対抗することができる。サタンは今もキリストの時と同様に聖書を引用できるので、自分の惑わしを支持するために、聖書の教えを悪用するであろう。この危険な時に立とうとする者は、聖書のあかしを自分で理解しなければならない。



全世界に臨む欺瞞

多くの者は、愛する肉親や友人の姿をしてもっとも危険な異端の説を唱える悪霊たちに直面するであろう。これらの来訪者たちは、われわれの最も感じやすい同情に訴え、自分の主張を支持するために奇跡を行う。われわれは、死んだ者は何事をも知らない、このように現れる者は悪鬼の霊である、という聖書の真理によって彼らに抵抗する用意がなければならない。

今われわれの前には、「地上に住む者たちをためすために、全世界に臨もうとしている試練の時」がある(黙示録 3 : 10)。神のみ言葉の上に信仰を堅く打ち立てていない者はみな、欺かれて敗北する。サタンは人の子らを支配するために「あらゆる不義の惑わしを行い、」彼の惑わしは絶えず増大する。しかしサタンは、ただ人々がその誘惑に自分から負けるときだけその相手を獲得することができる。真理の知識を熱心に求め、服従によって魂を清めるために励み、こうしてその戦いに備えて自分にできるところを行っている者は、真理の神が確かな保護者であられることを見いだす。「忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも……あなたを防ぎ守ろう」と救い主は約束しておられる(同 3 : 10)。主は、ご自分に頼る魂が1人でもサタンに打ち負かされるままにしておくくらいなら、ご自分の民を守るために天からすべての天使を遣わしたいと思っておられる。

預言者イザヤは、神のさばきの時に自分は安全であると考えさせるような恐ろしい惑わしが悪人たちに臨むことについて、次のように描写している。「われわれは死と契約をなし、陰府と協定を結んだ。みなぎりあふれる災の過ぎる時にも、それはわれわれに来ない。われわれはうそを避け所となし、偽りをもって身をかくしたからである」(イザヤ 28 : 15)。ここに描写されている種類の人々の中には、かたくなな悔い改めない心を持ち、罪人に刑罰はないと信じて自分を慰めている者たちが含まれている。



3 4 心霊術の正体

すなわち彼らは、人間はどんなに墮落しようとする問題ではなく、すべて天にあげられ、神の使いのようになるのだと信じているのである。特に、死と契約をなし、陰府と協定を結んだ者とは、天が悩みの時に義人のために守りとして与えた真理を捨て、サタンが代わりに提供した偽りの避け所、すなわち心霊術の惑わしの主張を受け入れる者のことである。

現代人の盲目

現代人の盲目は、言い表しようのないほど驚くべきものである。幾千の人々が神のみ言葉を、信じる価値がないものとして拒み、サタンの惑わしを非常な確信をもって受け入れる。懐疑主義者や嘲笑家たちは、預言者たちと使徒たちの信仰を強く主張する者の頑固さを攻撃する。そして、キリストと救いの計画について、また真理を拒む者の上に臨む刑罰について、聖書に厳粛に宣言されていることを、公然と嘲笑して気をまぎらわす。彼らは、神のご要求を認めてその律法の要求に従うような、狭く弱く迷信的な精神を大いにあわれんでいるかのような態度を取る。彼らは実際、あたかも死と契約をなし、陰府と協定を結んだかのように、すなわち、あたかも自分たちと神の刑罰との間に、通ることも突き抜けることもできない壁を打ち立ててしまったかのように、大いなる確信を示す。彼らの恐怖を引き起こすことができるものは何もない。彼らは、完全に誘惑者に屈服し、それと緊密に結合し、その精神をすっかり吹き込まれているので、誘惑者のわなを断ち切る力も気力もない。

サタンは世界を惑わす最後の努力をなすために、長い間準備してきた。彼の働きの基礎は、エデンにおいてエバに与えた保証「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」という言葉におかれている(創世記 3 : 4、5)。サタンは、心霊術の発展の中に、その惑わしの傑作のための道を少しずつ備えてきた。彼はまだ自分の陰謀を完成してはいない。



3 4 心霊術の正体

それは最後の残りの時に達成されるのである。預言者はこう言っている。

「また見ると、……かえるのような3つの汚れた霊が出て来た。これらは、しるしを行う悪霊の霊であって、全世界の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の大いなる日に、戦いをするためであった」(黙示録 16 : 13、14)。み言葉を信じる信仰によって、神の力に守られている者を除いて、全世界は、この惑わしの隊列の中にまきこまれる。人々は致命的な安心感へと急速に誘い込まれているので、神の怒りが降下して初めて目をさますのである。

主なる神は言われる。『わたしは公平を、測りなわとし、正義を、下げ振りとする。ひょうは偽りの避け所を滅ぼし、水は隠れ場を押し倒す。』その時あなたが死とたたえた契約は取り消され、陰府と結んだ協定は行われない。みなぎりあふれる災の過ぎるとき、あなたがたはこれによって打ち倒される」(イザヤ 28 : 17、18)。